

8月26日(日) 第26回メキシコシティマラソン

いよいよマラソン当日を迎える。朝4時半のモーニングコールで起床し、ロビーに朝食弁当を取りに行く。弁当はおにぎり3個とおかずで食べやすいおいしい弁当だった。

5時半前にホテルを出発し、徒歩でスタート地点に向かう。周囲はまだ薄暗い。20分くらいかけてスタート地点に到着、集合写真、個人写真など写しているうちにスタート時間が迫ってくる。黄色ゾーン(Eゾーン)に向かおうとするが正確なスタートゾーン位置が分りにくく、竹田会長、能瀬さん達と出会い黄色ゾーンへ向かう。

7時前になると女子が男子の間をぬってどんどんスタート地点に走っていく。女子は男子よりスタート時間が15分早いのだ。

7時13分にドーンと言う合図とともに一斉にスタートする。スタートラインには沢山の紙吹雪が舞っていた。

ランナー達のペースは最初からかなりのハイペース、数キロ進んだところで梅田さんや国府さん、高橋さん、吉野さん、榎本さん達に会いそれぞれ皆さんを記念撮影、そして中森さん、近藤さんペアと一緒に共走、はだしのランナー山本さんにも出会う。操ちゃん、和夫さんペアも元気に走っていた。

ハーフも過ぎ28km付近に差しかけたとき沢山のバトカーが道を防ぎ、関門閉鎖、交通規制解除のような雰囲気になってきた。しかし、14km残してまだ2時間以上も時間があるのにもう収容車に乗せられそうな雰囲気は信じられない出来事だ。それでもバトカーの前を走ったり、歩道に上がったりにして走っていた。どうも近藤さんは強制的に収容車に乗せられたらしい。中森さんはスピードを上げて走り去った。

そのうちメキシコシティ在住のマローと言う女性ランナーと一緒に走るようになった。彼女は大変親切な女性で交差点では腕を取って車の危険から守ってくれたり、歩道の段差では抱えて支えてくれた。後半14kmをマローと一緒に楽しく歩くことができ、途中で一緒になった国府さんと一緒に仲良く手をつないでゴールした。

このレースは途中関門はないと聞いていたが実際には厳しい関門(スタート4時間後の午前11時に道路封鎖解除)があり、収容車も完備されていた。遅いランナーには後半水もなく大きな段差の多い歩道を歩かされ大変に厳しい困難なレースだった。

フル百ランナー24人の中でトップは4時間21分の大野さんで明星操さん、近藤さんは収容車に乗せられ、竹田会長は地元の女性ランナーと一緒に6時間56分でルンルの執念のゴールを果たした。渡辺富夫さんは400回、梅田さんは100回を無事完走した。

私は28km以降歩道を歩き6時間23分35秒で234回目のゴールを果たすことができた。海拔2242mでの初めての高地マラソンではあったが、楽しく思い出に残るレースだった。

夜はイタリアンレストランで盛大な完走パーティーを行い、お互いの健闘を讃えあった。





















